内子町合併20周年記念シンポジウム

天にのぞ 来をひらし



版画 山田きよ さん

た」を振り返ってみませんか。

平成17年1月1日に旧内子・五十崎・小田の3町が合併して、今年で20年の節目を併して、今年で20年の節目をクラスました。合併当時も人口迎えました。合併当時も人口迎えました。合併当時も人口の課題がある中、内子町はまちづくりの指針となる10年間ちづくりの指針となる10年間を発き続けてきました。財産、第3期総合計画の策定が進められており、7年4月からは新しい計画に基づくまからは新しい計画に基づくまちづくりが始まります。

振り返り未来への課題解決の も、自分の「住んどってよかっ ことが見えてきます。皆さん の魅力があり、そしてそれら 広い世代の町民代表者が、内 寄せられた体験談を元に、幅 ド」を町民の皆さんに募集。 住んどってよかったエピソー ヒントにするため「内子町に 開催にあたり、改めてまちを がまちづくりの根底にある た。何気ない日常にたくさん 子町の良さを語り合いまし ジウムの様子を紹介します。 て2月8日に開かれたシンポ 今回は合併20周年を記念し

風習、 五穀豊穣を祝った生業 ら育まれる祭礼・神事・ ような営みが、美しい景観を ってきました。 田畑を耕し農作物を植え 民俗 か

指針となる計画の、私なりの解 釈を伝えたいと思います。 町民の気持ちで、まちづくりの に関わらせてもらいました。

目指す将来像

であり、 この将来像に込められています。 という町の姿勢と住民の願いが、 和紙や酒などの産物、暮らしか ティです。 と産業が連なり作り出す景色。 平成17年の合併時から掲げ続け 美しい持続的に発展するまち」。 像は「町並み、村並み、山並みが る文化を大切にし、残していく 「美しい」とは、好ましさや誇り み、村並み、山並み」とは、暮らし 響く言葉はありません。「町並 が、外から見ればこれほど心に 土地の資源を生かした手漉き 本計画で内子町が目指す将来 住民にはなじみの言葉です 私たちのアイデンティ 人々が生きた証であ

力し、矛 り拓いていくという思いが込め ちづくりの質をさらに高め、 は、未来に向けてこれまでのま 未来をひらく」という言葉に 柔軟に可能性を広げ、 います。

切

まちづ 第3期内子町総合計画の策定 史に < のぞみ、 りを目指し

まれます。愛情を持って誰かが バトンタッチしてくれたおかげ 今も続いているのです。

歴史にのぞみ、未来をひらく」

む」、②向き合い、時に挑戦す①敬意を表して振り返る「望生きてきた証。「のぞむ」には、 行動の積み重ねであり、 動理念です。 が必要です。 る、受け継ぐべきまちづくりの 子町の歴史は、多くの町民が誇 の意味が込められています。内 を見いだす「希む」 る「臨む」、③未来への道しるべ ちが今の内子町を形作ってきた たちがどうあるべきかという行 のぞみ、未来をひらく」は、私 シンポジウムのテーマ「歴史に 工夫し、追求し続ける姿勢 幅広い世代がそれぞれ考 歴史とは、先人た 懸命に の3つ

ちにここで頑張る原動力をくれ 語り合う姿に感動しました。「内トークセッションで皆さんが 合えるまちを目指しましょ 在です。みんなが活躍 の魅力を伝え、子どもは大人た 高齢者は若い世代にまちの本当 歴史を受け継ぐ力になります。 力を語り合い実感することが 子らしさ」とは何か、 どの世代も社会を守る存 地域の魅

すことが未来を守り、選択肢を こと。私たちがアクションを起こ 界に視野を向け、挑戦し続け 残すことにつながるはずです。

まちの歴史を表し、

地域の意志と

いうバ

未来をひらく

小さくても輝く「縮充社会」

大きな力を持ちます。

11

続できる仕組みを考えることが 充実した社会を目指し地域を継 地域活動の維持の可能性が高ま 目指すとし、「地域の担い手が支 を作る必要性があります が幸せか、その地域のものさし は違う価値が必ずあるはず。 大切です。人口が増える時代と 小をただ悲観するのではなく、 会を「縮充社会」とい 少する中でも幸福で充実した社 る」と書いています。人口 え合うことで、豊かな暮らしや 2045年時点で人口1万人を 課題です。同計画で内子町 口減少は避けられな います。 が減 縮

生きて

未来価値創造機構副機構長 愛媛大学学長特別補佐 教授 井口 梓さん

と思います という言葉に、 「歴史にのぞみ、未来をひらく」

願いを込めたい

まちの追求が続いていくよう、きです。内子町にしかできない は、このまちで私たちが幸せに ント。総合計画に基づく行動 「地域の意志」というバトンを私 られる日が必ずやってきます。 か皆さんも先人として振り返 人にもふるさとを忘れさせな 刻まれていくもの。町外にいる 先人たちが築いた「文化」は 合併20周年はターニングポイ くための大きな種ま ずっと残り つか誰か 9

に渡していくのです。 たちは握っていて、

11

寄せられたエピソードは、ホー ムページで公開しています。 ID 142469

森山 翼さん=下立山= 合併した平成17年1月生まれで、今年20 歳を迎えた。本シンポジウムの司会を担当



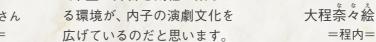
シンポジウムでは町民代表者によるトークセッションを実 施。「住んどってよかったエピソード」を元に、愛媛大学教 授の井口梓さん、小野植正久町長とともに、まちの魅力を 語り合いました。井口先生の講演と併せて紹介します。

トークセッション

幸治さん 徳田 =内子10=

内子座から広がる演劇文化

19歳の時、青年団で演劇に触 れました。その後、町民劇団 を結成して内子座の舞台を踏 み、演劇を通じて人とつなが り、とうとう芝居をしにアラ スカまで行ってしまいました。 内子座というすばらしい劇場 で、生の舞台を気軽に楽しめ





大程奈々絵さん

「農」を通じた多くの出会い

道の駅からりへ農産物を出荷 しています。農繁期の駅は生 産者とお客さんで活気に満ち、 季節ごとのおいしい野菜や果 物がたくさん。農業を通じて 多くの出会いがあります。ま たデッキから眺める川のせせ らぎと季節の花々は心の癒し ゆったり過ごせる、かけがえの ないお気に入りの場所です。

要さん 室岡 =上川中央=

大西優太朗さん

=内子4=

内子ならではの子育てを

結婚を機に、東京から旦那の 地元・上川地区へ。彼に「絶対 に帰る」と言わせた内子で子育 てをして感じるのは、地域との 距離の近さ。祭りがあったり、 おばあちゃんに「芋掘りしよ う」と誘われたり、都会ではで きない経験がいっぱい。「戻っ てきたい」と言える子どもが育 つまちって、すてきですね。

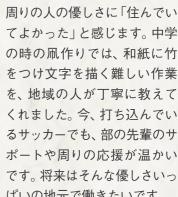


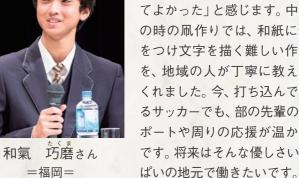
何気ない風景が僕の活力源

小学生の時、JR内子駅前に 広がる田んぼの風景が好きで した。住宅街になった今では 地域の子どたちが登校する姿 に、昔を懐かしみながら元気 をもらっています。大学を卒 業したら、大好きな内子町の まちづくりのために、皆さん に習いながら自分のできるこ とを探したいと思っています。



ずっと心に残る人の優しさ





西岡千代子さん =小田下=

地域愛にあふれたまち

町外から内子高校小田分校に 来てくれた寮生に、「おばちゃ ん食堂」で食事を提供していま す。話を聞いた人が「これ使っ て」と野菜を持ってきてくれた り、遠くの幼馴染が手伝いに 帰ってくれたり――。生徒た ちが喜ぶのが、みんなうれしい んです。私にとっても、地域の 愛情に触れる瞬間です。

(5) 2025.3 広報うちこ